



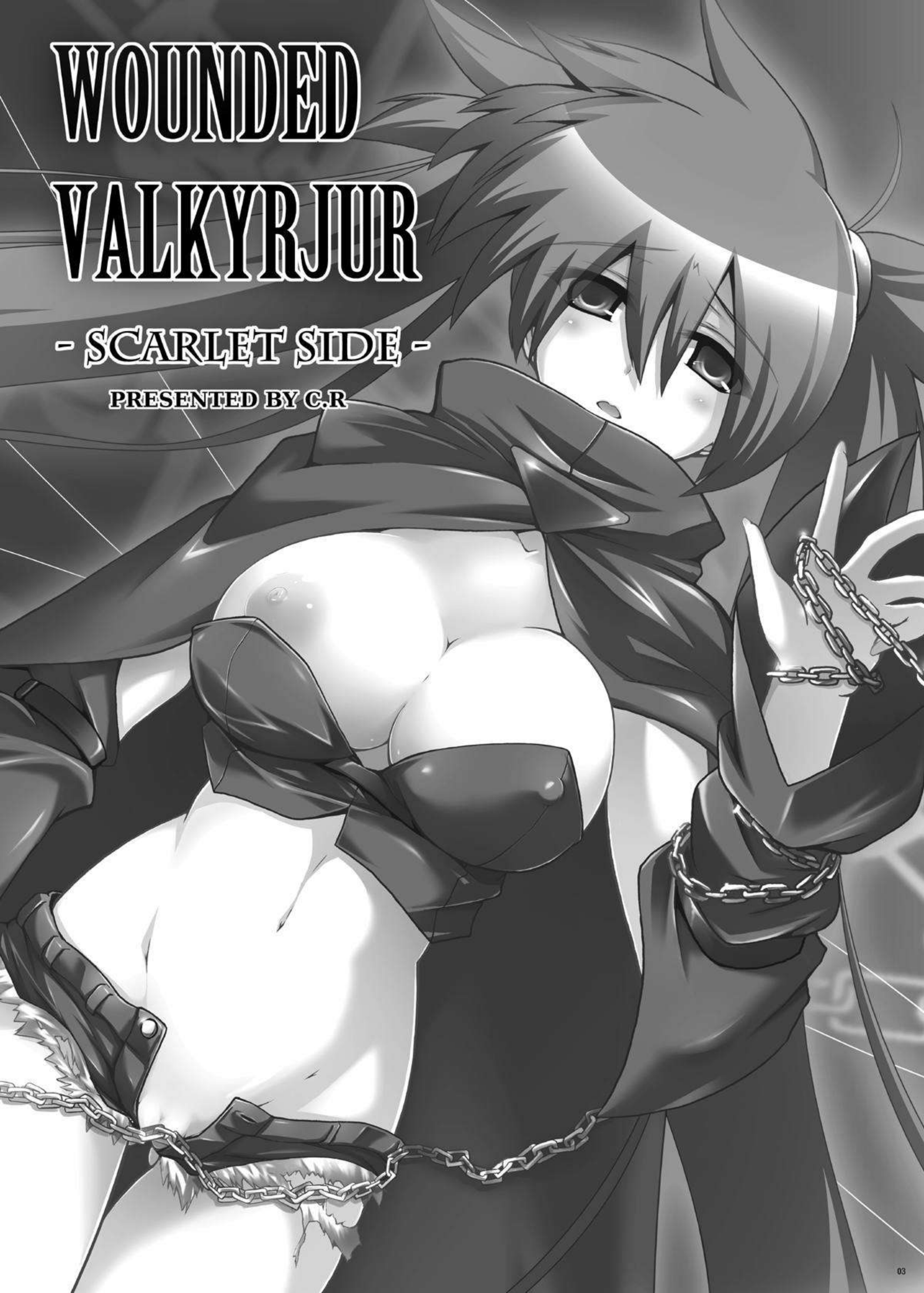
**WOUNDED
VALKYRJUR**

**- SCARLET SIDE -
[FOR ADULT ONLY]**

WOUNDED VALKYRJUR

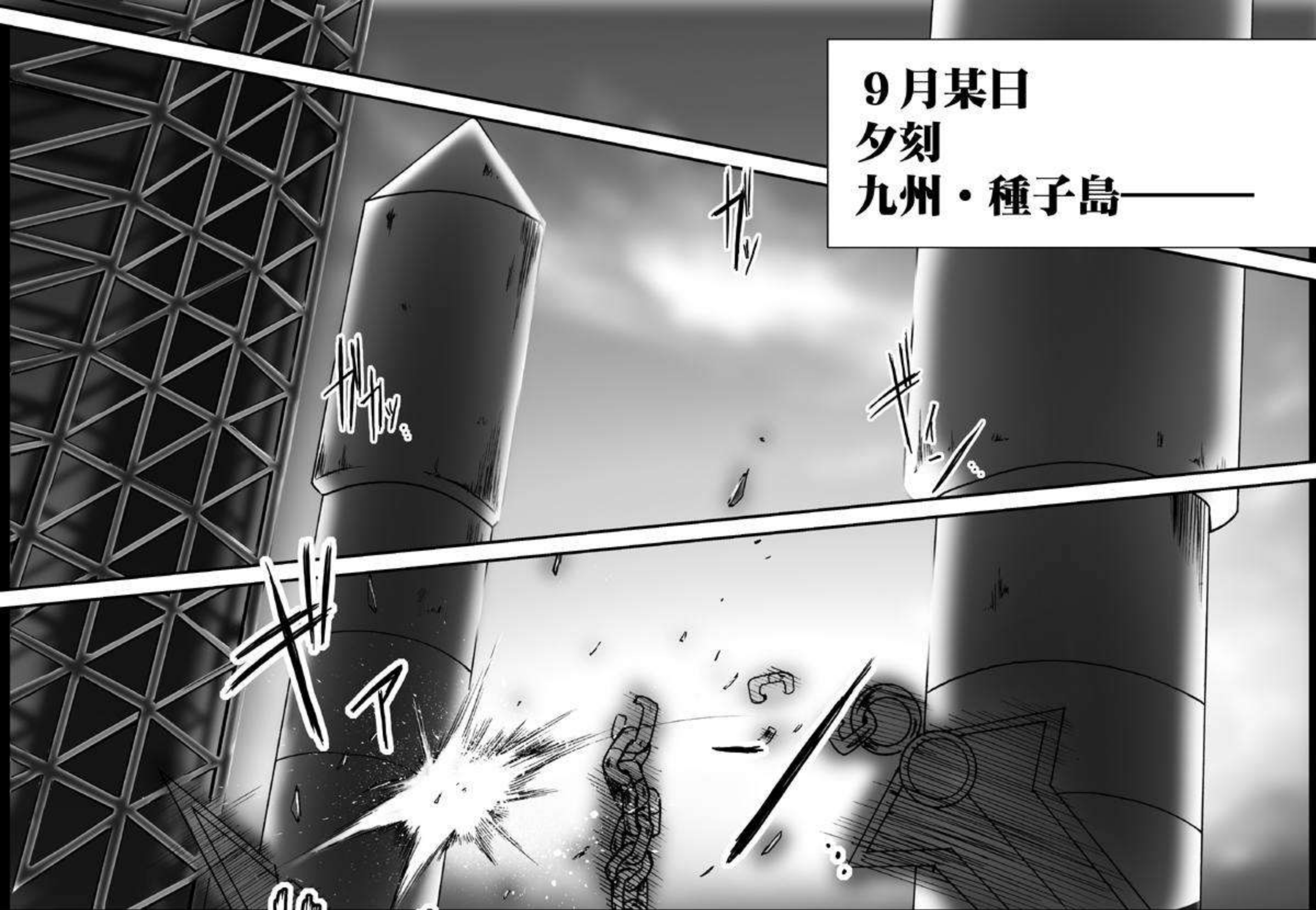
- SCARLET SIDE -

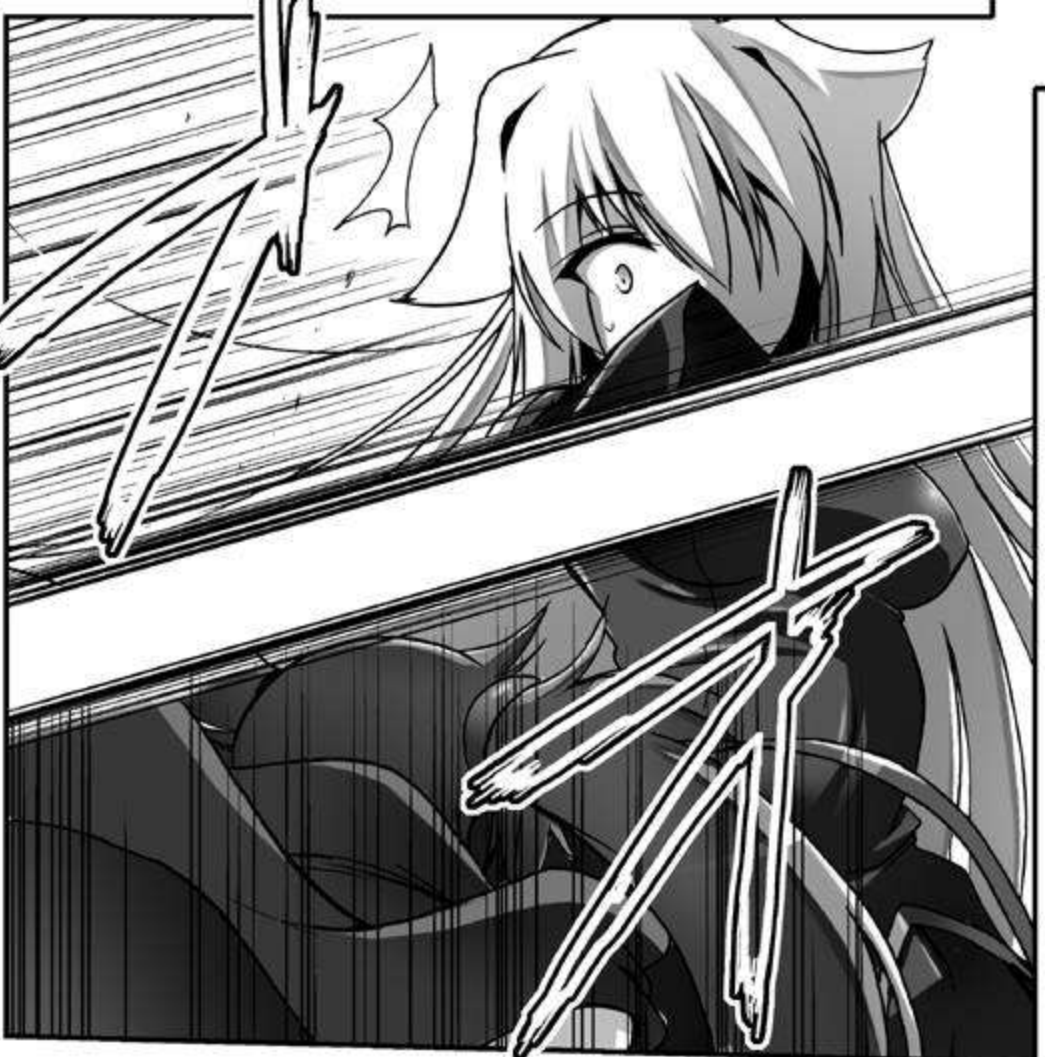
PRESENTED BY C.R



WOUNDED
VALKYRJUR
- SCARLET SIDE -

9月某日
夕刻
九州・種子島





面白いおもしろい!!!

あははっ! 私と!私のバルドゥールから
間合いを取って勝てると思うの!?ソファイー!!



あはっあははははっ!
そんなチャチャな火力で
私のガイストの弾幕に対抗しようっての!?

…ゴツトフリート!



ガイストの飛び道具の影に…

ソフィー、自分の剣を
忍ばせて……!!



…エーテル体で護られているから
致命傷にはなっていない筈だが…

とにかく、まずは司令官殿に連絡をして…
シャルラッハロートの持つ精霊石の原石を
回収して、それから…



…よ……し……、なんとかか…
抑えることが出来た……か……?



なっ...!!



危ない危ない...、すっごく面白いこと
するのね、ソフィー...♪

ちよつと死ぬかと思っちゃったあ...

...っ とっさに鎖で
ガードしたのか...!

でもね、駄目じゃないソフィー...
ソフィーが私を殺しちゃ駄目じゃない。
ソフィーが私を殺しても、
私とソフィーは一緒に成れない。

私がソフィーを殺して、私も死んで、
世界も消えて、それでずっと一緒。
それが「今」の私の願い。

私を愛してくれない今のソフィーなんて
要らないから、だから私が殺すの。
この手で殺すの。

だって哀しいんだもの。
私は貴女の為に頑張ってるのに、
ソフィーは私の為に戦ってくれないから...!





……ん……ツッ!

あははっ、気が付いた?
ソフィー!

その鎖で貴女の力を吸い出しているわ、
抜け出すのも破壊するのも無理よ。



すっごくいい眺めよ……
ソフィー、かわいい……♡



ッッッ



うふふ…、ずうっと私、ソフィーと
こういう風にくっつき合いたいって思ってたんだあ…
…少しだけ、後押ししてくれた「呪い」に
感謝してもいいかな…

そ…そんな洗脳なんか
衝き動かされて…、こんな事をして…
お前は本当にいいのか、
シャルラッハロート…っ

あはっ♪
反抗的な目も素敵だよ、ソフィー…

ソフィーの胸、かわいいね…
どう、感じる？ ソフィー…

むむ…♡

そ、そんな…感じてなんて…っ
…ん…っ

んっ… ソフィーの乳首…素肌…
ちよつと汗ばんでて、甘いよ…
…おいし…♡

ホントかなあ…？
ちよつと息遣い荒くなってる
気がするけど…？

しゅ…♡

ん…ふう…

ほら… ソフィーの乳首
立ってるよ… ね？

…くっ…っ

んっ…んっ…くっ…っ



んふっ… …ふう…
ソファイアのジュース…
とっても美味しいよ…♪



ははは…



は…あ…強がってても、やっぱり
気持ちよかったのね、ソファイア…
パンツびしょ濡れだよ…？

じゅわ…

ははは…



だから…、コレでソファイア…っ
私とソファイア、一緒に…むっつたな…っ…っ…

ははは…



でも、まだ足りない…。
まだソファイアの声…我慢してない、
本気の喘ぎ声聞きたいの…

ははは…

よせ…っ 正気になれシャルラッハロート…！
そんな、衝動に任せてこんな事…っ、
お前は絶対後悔するぞ…っ

後悔？ 正気？ 何言ってるのソフィー…！
ずっとずっと、私はソフィーと一緒に…
繋がりたいって願ってたのよ。
奴らの呪いが私を支配する前から、
ずっと…！

ソフィーと一緒になるのも！
こうやって繋がることも！
ずっとずっと…私は望んでいた…
…だからあ…っ

ああ…挿れるよ、ソフィー…っ
ようやく、ソフィーとひとつになれるよ…
…ソフィー…！

ま…て…
し…シャルラ…ハ…っ

しっ…ら…ら…ら…
しっ…ら…ら…ら…

しっ…ら…ら…ら…

しっ…ら…ら…ら…

しっ…ら…ら…ら…



痛い？痛い？痛いよね？ ソフィー…
でももうちよつとでちゃんと気持ちよくなれるからね、
我慢してね、ソフィー…♡

あつ…は…あ…♡
やっと私、ソフィーとひとつになれた…あ…♡

ああ…あああ…♡すごい、すごいよソフィー…♡
ソフィーの処女おま〇こ、気持ちよくなって
腰止まらないよう…♡

ほらあつ…♡我慢しなくて
いいんだよ、ソフィー…♡
そんな声押し殺してないで、
おっきい声で喘いでみせてよ…♡

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

や…あ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…

んっ…んっ…



あれ...? リボンなんて唾えて...
そんなに声出したくないの?

悪あがきしちやって...
ソフィー、かわいい...



ねえほら...っ そんな意地張ってないで、
声聞かせてよ、ソフィー...っ

そんなガマンとか...
形式ばった言葉とかで飾ってない、
貴女の本気の喘ぎ声を私に
聞かせてよ、ソフィー...!!





——飾っている…のは、どっちだろうな、シャルラツハロート…



あ…は…何言ってるの、言ったでしょ？ ソフィー、「呪い」に後押しはしてもらったけど、これが「私」の…

「呪いがあるから…洗脳されてるから…、私はソフィーにこんな事が出来る、洗脳が解けてしまえば、それを『洗脳されていた事のせい』に出来る」…

…それを安心感のようなものにして…自分を委ねて、「洗脳」という仮面で自分を飾ってるだけじゃないのか？

…違っ…!!
わたし…し、私…は…!!



勝手に自分で悩んで、自分だけで傷つくな……っ

ザッ
グッ
グッ
グッ
グッ

甘えたいなら…司令官殿…や、
…私に甘えるといい…

やめて…ソフィー…
そんなこと……っ

あは…は…無駄よ、
ソフィー…そんなこと…

自分…に…甘えるな、
シャルラツハロート…っ



早く私達の元に帰還しろ、
シャルラツハロート!!!

ドレクスラーに植え付けられた
マインドコントロールに
干渉・破碎する……!!

…だから…っ

…イーテルリンク接続、
一か八か、操剣の欠片に
私の力を注入して…!!

……っ……

ご…ごめん…ソフィー…
ごめんな…さい…、ごめんなさい…！
わたし…っ

私…ソフィーに…こんな…
こんなひどい事までするつもり…
なかった…のに…っ

わ…私…ソフィーと一緒にいたいって…
ずっと一緒にいたいって、それは
本当に思ってたけど…

…心の奥の方では、こんな風に、
ソフィーと繋がりたいって、
そう思ってたのかもしれない…
…でも…

でも、こんなにソフィーを傷付けてまで
…そうなりたいだなんて…絶対に
思っていない…はずなのに…
…私…こんな…っ

自分を責めるな、私は問題ない…
…よく帰還したな、
シャルラツハロート…

…いや、こういう時は、
こう言うのだったか…

…「おかえり」、
シャルラツハロート…



…あ、ご、ごめん…ソフィー…
すぐに抜くから…っ

あ…ま、待て…

…うさ、ん、ん…

えっと…最初…は確かに痛かったし…
洗脳された状態のお前に無理矢理
やられている事もあって、
嫌だったんだが…

かあかあ…

だ…だんだん…気持ちよくなってきて…
…シヤルラツハロートと…繋がってるのも
嬉しく…思えて…
…だから…

…こういう、時…は…えっと…
…も、もっとお願い…シヤルラツハロート…

ほっ

か、かわいい…

巻：ワリス。



じゃ、じゃあ…
動くよ？ソフィー…

あ…ああ…



かあかあ…

じゅんじゅん

びんびん

びんびん

はあ...
はあ...
はあ...

やつ...は...あ...ソファイ...の...
ソファイの中、きゆうきゆう締め付けて...
すこ...いい...っ

はあ...ああ...っ う...うん...っ
シャルラツハロートの...が、私の中...
子宮...突いてきて...っ 熱い...けど...
気持ち...いい...っ

ソファイ、ソファイ...！んあ...す...ミ...
ソファイの喘ぎ声...っ 甘く可愛いわ...
耳に入るたび、イキまじう...になっちゃった...！

あ...あ...あ...
あ...あ...あ...
あ...あ...あ...

そ、そんな事...言う、な...っ
恥ずかしい...！
ああああ

そ...ファイ...っ ソファイ...っ
もう痛く...ない？ ソファイも
気持ちいい...？

きゅん...
きゅん...
きゅん...

はう...
はう...
はう...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...

はあ...
はあ...
はあ...



ソフイー…ソフイー…っ♡
いい？イイ？ 射精しても…中に…っ
イこう…一緒に…い…っ♡

あつ…ん…っ♡ああ…っ♡
私…も、シャルラツハロート…と、
い…一緒に…っ♡



ちぎ…る…っ♡
シャルラツハロート…っ♡

ソ…フイー…っ♡



あ…あ…あ…っ♡
あ…あ…あ…っ♡
あ…あ…あ…っ♡

あ…あ…あ…っ♡
あ…あ…あ…っ♡
あ…あ…あ…っ♡



……あははっ かわいい寝顔……♪
本当に疲れちゃったんだね……

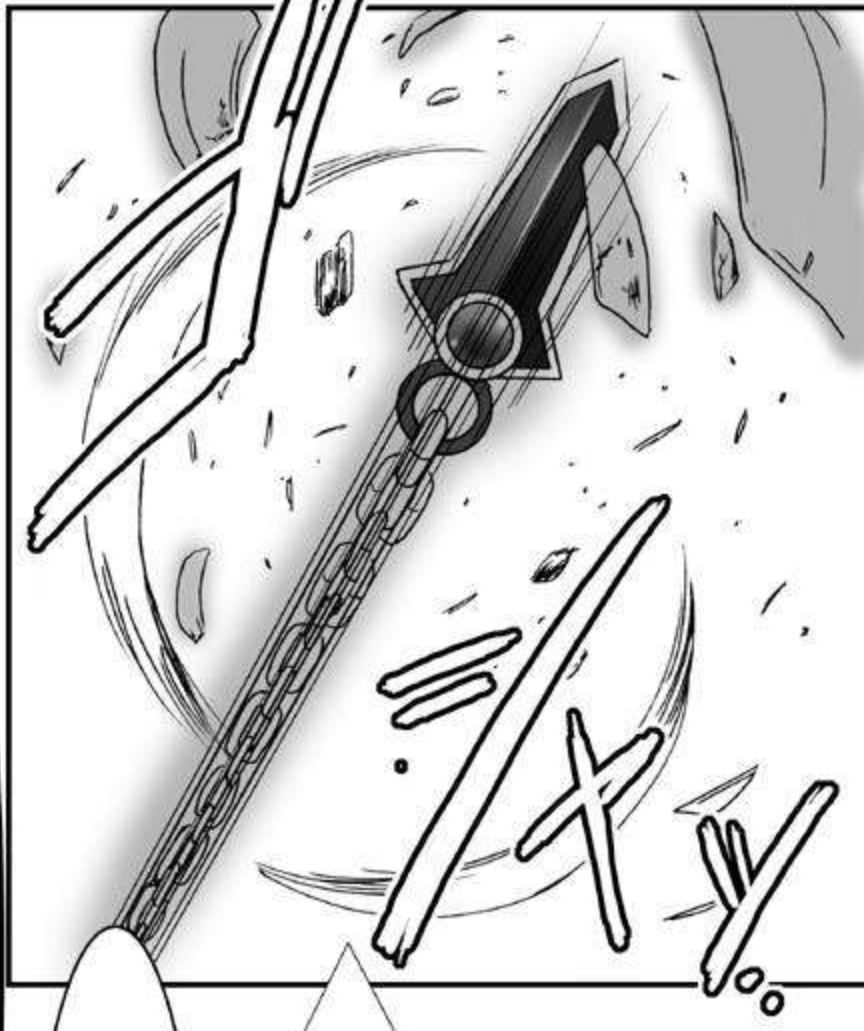
……ほとんど力を吸われてた状態なのに……
無理して……私のために……

ごめんね……でも……
ありがとう……ソフィー……



私にソフィーを傷付けさせようとしたモノ
全部、壊すだけよ……!!

神霊兵器『ラグナロク』射出まで
カウント70……



——防衛システム起動・
射出シークエンス最優先



——あとは……

推進用聖霊エネルギー充填開始・
日本列島沈没作戦攻撃座標指定——

ごめんね、ソフィー、
私の独りよがりで、こんなに迷惑かけて…

ソフィーのいない世界なんて嫌…
私がいて、ソフィーのいない
世界なんて、考えられない…

だから私は、ひとりでも
私と貴女の世界を護ろうって、
貴女のために戦おうって…
それしか今の私にはなくて…

…けれど、結局私は
一緒に戦おうとしてくれた
ソフィーまで傷付けて…

—そんな呪われた私にも、
あなたは優しくしてくれて…
目を覚まさせてくれて…

こんな甘えてばかりの私に、
まだソフィーは…いつまで…
私と一緒にいてくれるんだろうか？

私はそれが、
いつも怖い—

これまでの私は、
ソフィーのために
何か出来ただろうか？
これから私はソフィーに
何かを出来るだろうか？

また私はソフィーに
迷惑をかけるかもしれない。
それでも…私はずっと
ソフィーのそばにいたい。

だから、これが終わったら、
ソフィーと顔を合わせて、お礼を言おう。
ありがとうって…
何度でも…しつこいくらいに…

仲間とか、友達とか、
そんなのよりも、
ずっと大切な人だから…
…そして、叶うなら、また…

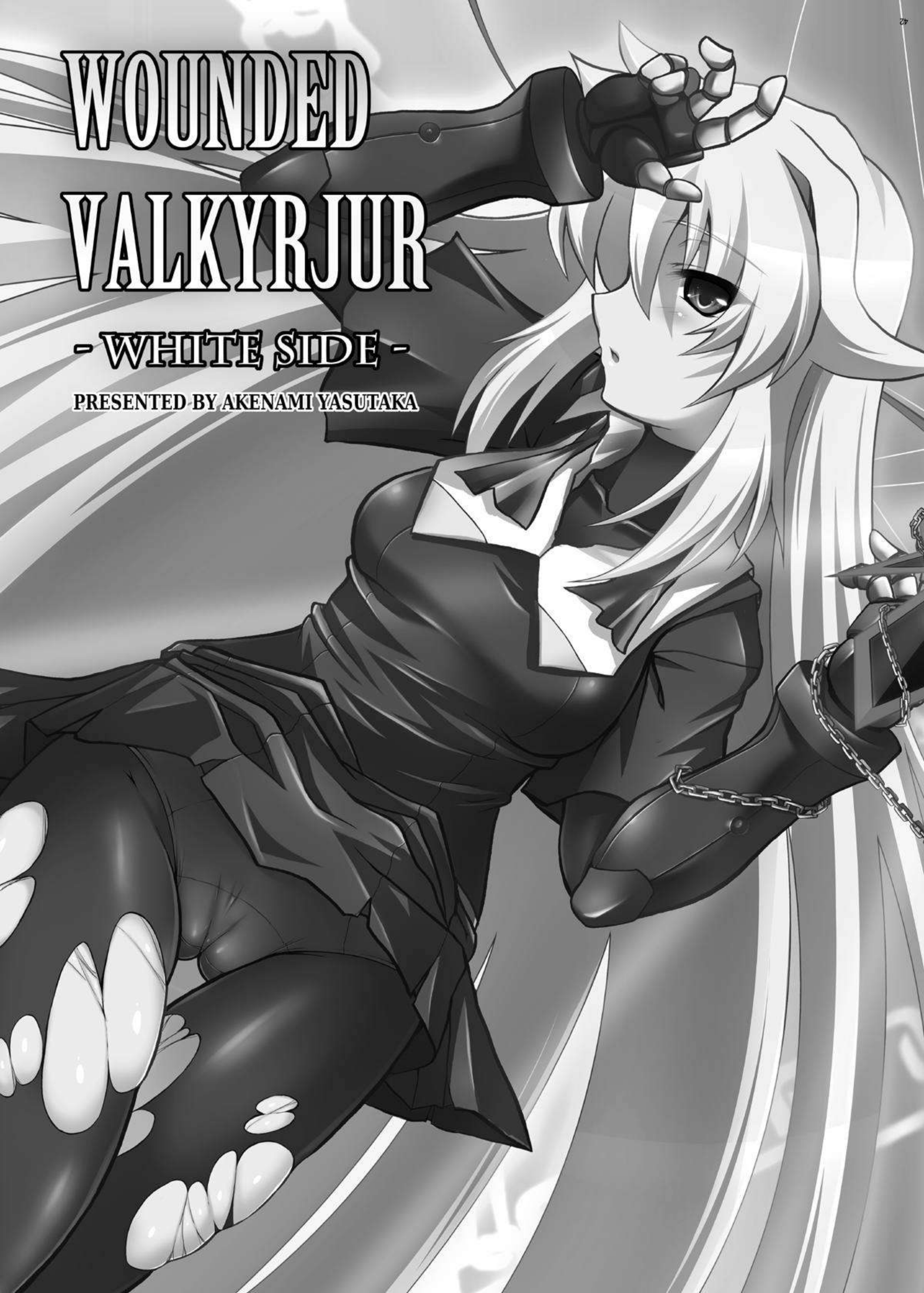
ずうっと、いつまでも、
いちばん大切な貴女と一緒に――

END...

WOUNDED VALKYRJUR

- WHITE SIDE -

PRESENTED BY AKENAMI YASUTAKA



WOUNDED
VALKYRJUR
- WHITE SIDE -

シャルラッハロートか

ソフイー…

どうした？

え…あ
うん…

え…と

そうか…
よかった

ケーキ
美味しかった…
ありがとう…

覚えたてで上手く
出来たか心配
だったが

そう言って
貰えれば
作った甲斐があった



何で私を

責めないのよ!!

シャル...

ラッハロート...??

機関に洗脳されて

たって...

私は殺そうとしたのに

ソフィーを殺そうと
したのに何で責めないの??

ソフィーを傷つけたのに...
それでもソフィーは優しくして
.....

.....

私は私の事が許せない...!!
だからそれならいっそ嫌われた
方がよかったのに.....何で!?



今回の件はお前一人の責任
ではないだろう



私は誰よりもお目の事を
理解しているつもりだった
……

初めは「何故一人で行ったのか」
とお前を責めた事もあった



私はお前のことを何も
分かっていなかった
のかもしれない……

だが今は……

「何故一人で行かせたのか」と
私自身を悔いている……



お前一人に
すべてを背負わせて
しまった

何故もっと早く
気付いてやれなかったのか

許してくれ
シャルラツハロート
……すまなかった

何で…

何でソフィーは
いつも…

何でソフィーが
謝るのよ…

優しくしないでよ…
怒ってよ…
叱ってよ…

でないと私
ソフィーの優しさに
甘えてしまう…

そうしたら私は
……

どうやってソフィーに
償えばいいのか
わからなくなっちゃうから…

……

シャルラッハロート…

私は償いなどお前に
要求しない

お前を無事に
保護できた…

それだけで充分だ

誰もお前を責めたりは
しない

ソフィー…

また…一緒に
いてもいいの？

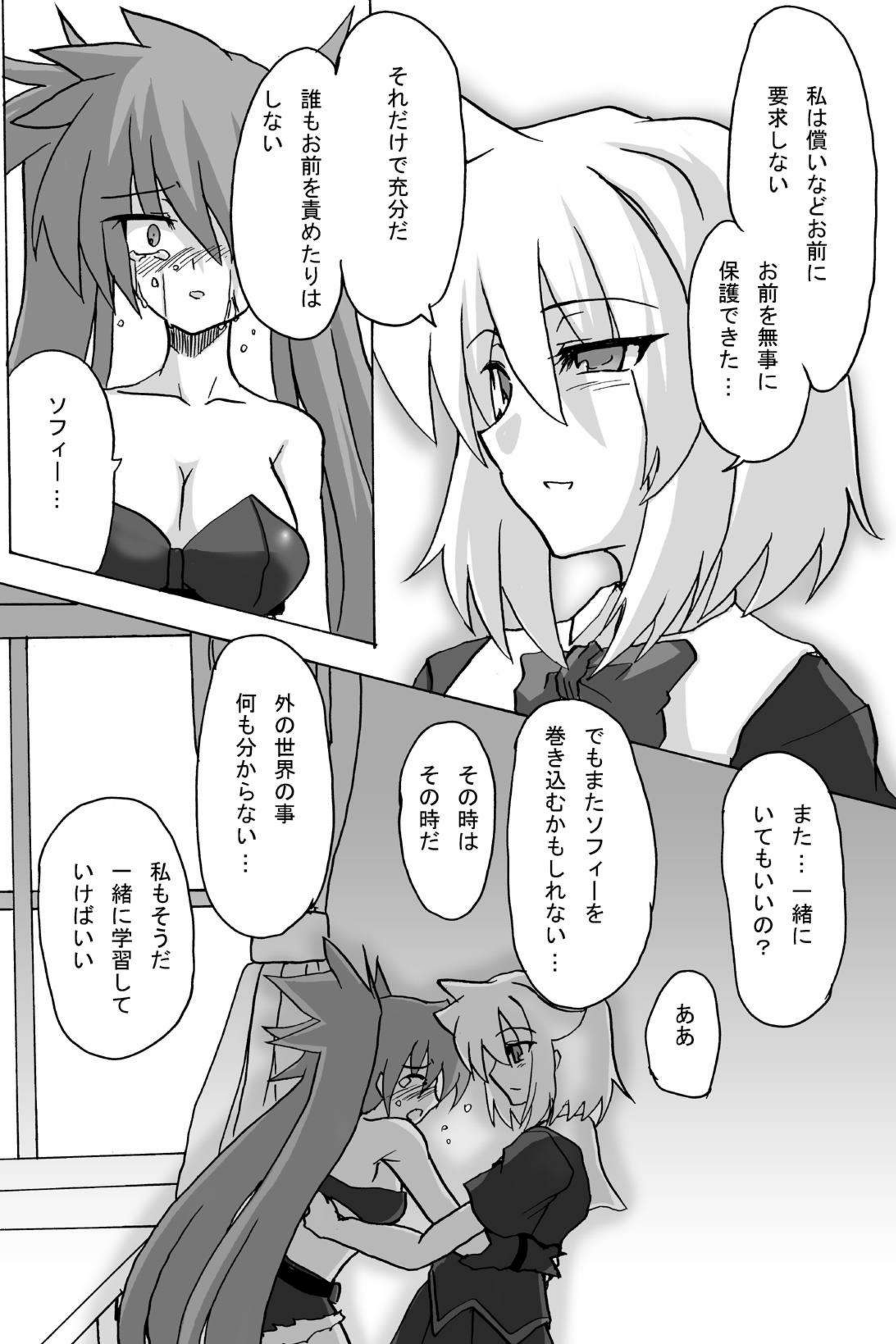
ああ

でもまたソフィーを
巻き込むかもしれない…

その時は
その時だ

外の世界の事
何も分からない…

私もそうだ
一緒に学習して
いけばいい





ソフィー……！

ありがとう……

ごめんなさい……
ありがとう

もう終わった事だ

だから
もう泣くな



ねえ……



うん……

私もっと

私 すごく
嬉しいよ……



ソフィーに
触れたい……



私にももっと
触れてよソフィー…

私はもっと
ソフィーを

感じたい…

ソフィーにも

私を

感じて欲しい…

ソフィーと一緒になんだったって
実感させて…

あゝ…♡

ああ……ソフィー！
もっと強く触れて！！

ずっと……ずっと
ソフィーのそばに
いたいのだ！！





ソフィーも
同じ様にして...

ん...
どう...か?

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...

ん...
ん...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...

はっ...
はっ...



ねえ
ソフィー…

何だ？

私 ソフィーが
『家族』って呼んでくれて
すごくうれしかった…

そうか…

これからも
ずっと一緒に
いられるわよね？

年齢や性別は関係なく、
物心ついた時からずっと
一緒にいる。

当然だ

最初から、最後まで、
ずっと一緒に。

喜びも悲しみ、失敗も成功も
全てを分かち合い、
わかりあえる……………。

私たちは
『家族』だ。

こんにちは、もしくは初めまして。しーあーると申します。

今回実に一年半ぶりくらいの明波さんとの合同誌となりましたが、今までのとは違ってお互い真面目なお話書いて一冊にしようと言うことで、リバーシブル仕様の作りにしたりと新しい試みを取り入れましたが、いかがでしたでしょうか。

今回のお話は、シャルラッハロートが主役です。
自分はこういう「狂おしいまでに一途すぎる愛を持ったキャラ」というのに非常に弱いようで、この本のお話はそういったソフィーへの想いに主に視点を置いて書きました。

ずっと側にいたい、だからその人の為に何かを必死でする、その頑張りとその人に理解して欲しい、理解されないのが悲しくて、その思いが洗脳に働き動かされ、狂い始める…
…そんな本編の中の様子を描けていければいいのですが……
(この話でのシャルの「呪い」はそういった「自分の思いをわかってくれないなら、たとえ傷付けてでも伝えてやろう」みたいな部分を強くするため、「全体的に攻撃的衝動が強くなる」みたいな解釈になっております。)

時間不足と未熟さが相まって、展開が忙しいものになってしまいましたが、なにか読んで頂いた方に伝わるものや、残るものがあれば幸いです。

今回もまた合同誌として一緒に描いてくださった&表紙原案を描いて頂いた明波さんには本当感謝です。ありがとうございます！

なお、私事ではありますが、諸事情により、今回の本よりペンネームをイニシャル表記の「CR」から「しーあーる」へと変更いたしました。
この件につきましてでは多分4月末のコミ1やそのあたりでお知らせできればと思います。
それでは、長々と失礼いたしました。また次の本でも皆様にお会いできる事を夢見て…

—後書き—

どうも。明波康隆です。

何だかとてもこっ恥ずかしいお話になってますが、
ヴァイスの王子様コボリがすごく好きです。シャルラッハロートのウジウジした感じもたまらないですね。

きちんと新主人公&ライバル(?)になってる辺り、アルカナハートのキャラ作りはすごいと思うのです。
ゲームも面白いしね！

しかし今回久しぶりに漫画を描いてみたら、構図やら何やらが単調になってしまったり、
その他諸々反省点だらけです。
それでも楽しんで頂けたなら幸いです。

一緒に本を作ってくくださったC. Rさんには本当感謝。

WOUNDED

VALKYRJUR

wounded 【英】 傷を負った・(感情などを) 傷つけられた～

valkyrjur 【古北欧：複数形】 「戦死者を選ぶ者」の意。
「ラグナロク」の戦いにおいて、世の終わりまで
武事に励むとされる複数の戦乙女。

- 筆者 -

SCARLET SIDE : しーあーる (C.R)
WHITE SIDE : 明波康隆

— 【奥付】 —

発行：C.R's NEST & 禁煙ジャンパー
発行者：しーあーる (C.R) & 明波康隆
発行日：2010/04/11

ご意見・ご感想などはこちらへ

しーあーる (C.R) <http://www17.ocn.ne.jp/~crsnest/>
明波康隆 <http://blog.livedoor.jp/akenami/>

※この本はしーあーるの描いた「SCARLET SIDE」と
明波康隆の描いた「WHITE SIDE」の2つで構成されております。
もう一方は本の反対側からお読み下さい。



**WOUNDED
VALKYRJUR**

- WHITE SIDE -

[FOR ADULT ONLY]